

4 地球環境関係データ

■概要

(1) 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

府域における2019（令和元）年度の温室効果ガス排出量は**4,284万トン（CO₂換算）**です。前年度と比べると**5.8%**減少しており、その主な要因としては、電気の排出係数の減少が挙げられます。また、**2019年度**の二酸化炭素排出量は**3,858万トン**であり、前年度と比べ**7.2%**減少しています。

(2) 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移

2019（令和元）年度のエネルギー消費量は**513PJ（ペタジュール）**※であり、前年度から変化はありませんでした。

※J（ジュール）はエネルギーの単位。PJ（ペタジュール）は**10¹⁵J**を表す。

(3) 再生可能エネルギー等の導入実績

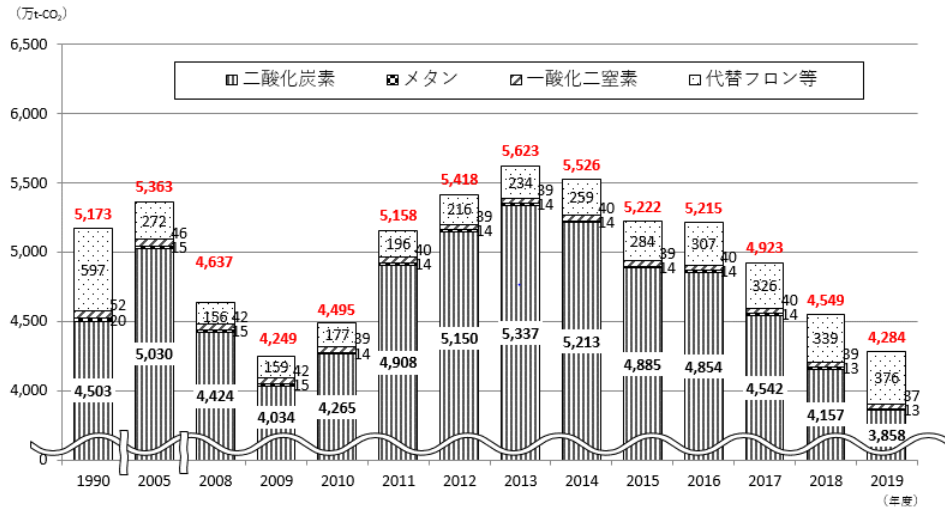
府における再生可能エネルギー等の導入実績（令和3年度末時点）は、太陽光発電が**113.5万kW**であり、前年度と比べ、**5.5万kW**増加しています。また、コージェネレーション等の分散型電源が**55.9万kW**、廃棄物発電等が**27.3万kW**などとなっています。

(4) 酸性雨（酸性沈着）

「酸性雨」とは、以前は大気汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物の影響により、降水のpHが酸性（**pH5.6**以下）を示す雨のこととされてきました。しかし、現在では「酸性雨」は単に降水（湿性沈着）だけでなく、粒子状物質やガス状物質（乾性沈着）をあわせた「酸性沈着」として、国境を越えた広域的な問題としてもとらえられています。これらは土壌、樹木、湖沼などの生態系に影響を及ぼすおそれがあるといわれています。

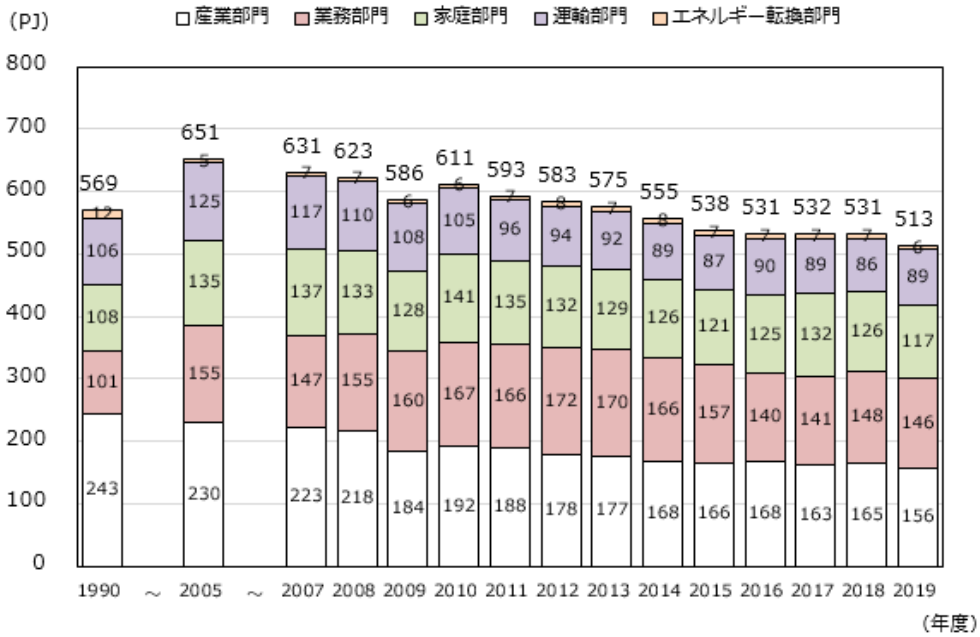
府では全国的な酸性沈着に関する調査に参画しています。平成**25～29**年度の調査結果によれば、全国各地の平均で**pH4.77**の酸性雨が降り続けていることが示されており、将来、これらによる影響が顕在化するおそれが考えられ、今後も注意深く監視を続ける必要があります。

4-1 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移



- (注) 1. 電気の排出係数は、2005～2007年度は一般電気事業者等(現行制度における小売電気事業者)に対して大阪府が行った調査等により府内基礎排出係数を推計し、2008年度以降は同様の調査等による府内調整後排出回数を推計し、算定に用いた。
2. 四捨五入の関係で、各値の合計と合計値が一致しないものがある。

4-2 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移



※PJ(ペタジュール):エネルギー量の単位で、千兆(10の15乗)J(ジュール)のこと
 なお、1J(ジュール)≒0.239カロリーとなる。
 例えば、0℃も水1リットルを100℃まで沸騰させるには、
 418kl(キロジュール)=418,000J(ジュール)が必要となる。

4-3 府内の再生可能エネルギー等の導入実績

(令和3年度末現在)

種 類	府内の導入実績
太陽光発電	113.5万kW (住宅用:51.0万kW、非住宅用:62.5万kW)
分散型電源(コージェネレーション等)	55.9万kW (家庭用:5.5万kW、事業用:50.4万kW)
廃棄物発電等	27.3万kW (うち、一般廃棄物による廃棄物発電:26施設24.0万kW)